



令和3年4月28日

各位

会社名 極東産機株式会社
代表者名 代表取締役社長 頃安 雅樹
(JASDAQ・コード 6233)
問合せ先
役職・氏名 常務取締役 曾谷 雅俊
電話 (0791)-62-1771 (代表)

令和3年9月期の連結業績予想の修正に関するお知らせ

令和2年11月13日に公表いたしました令和3年9月期(令和2年10月1日～令和3年9月30日)の連結業績予想について、下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 令和3年9月期 第2四半期累計期間 連結業績予想の修正
(令和2年10月1日～令和3年3月31日)
(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想(A)	4,405	40	16	10	1円88銭
今回修正(B)	4,674	179	203	145	27円02銭
増減額(B-A)	269	139	187	135	—
増減率(%)	6.1	347.5	—	—	—
(参考)前期第2四半期実績 (令和2年9月期第2四半期)	3,999	75	36	22	4円17銭

※ 当社は今期より連結決算となっており、(参考)に記載の前期第2四半期実績は、単体決算の計数であります。

2. 修正の理由

売上高につきましては、インテリア事業部門は自動壁紙糊付機を中心に売上が増加し、第2四半期累計期間では過去最高の売上高となりました。また、畳事業部門も、ものづくり補助金採択先への販売が順調にすすみ、プロフェッショナルセグメント全体の売上が好調でした。コンシューマセグメントは、ソーラー・エネルギー事業部門の案件開発が遅れましたが、コンシューマ事業部門は前期を上回りました。インダストリーセグメントは、食品機器事業部門はまだまだコロナ禍の影響を引きずり低調でしたが、産業機器事業部門が好調でセグメント売上高は前期を上回りました。ニューインダストリーセグメント（昨年10月1日に子会社化した株式会社 ROSECC）は、まずは順調な売上を確保しております。その結果、売上高は前回予想を269百万円上回る4,674百万円となる見込みであります。

営業利益につきましては、売上増加に加え、利益率の高いオリジナル製品の好調な売上により、前回予想を139百万円上回る179百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、売上高・営業利益の増加等により、前回予想を187百万円上回る203百万円となる見込みであります。

親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても、経常利益と同様の要因により、前回予想を135百万円上回る145百万円となる見込みであります。

3. 令和3年9月期 連結業績予想の修正

(令和2年10月1日～令和3年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	9,235	170	125	80	14円84銭
今回修正 (B)	9,370	300	285	190	35円24銭
増減額 (B - A)	135	130	160	110	—
増減率 (%)	1.5	76.5	128.0	137.5	—
(参考)前期実績 (令和2年9月期)	8,006	120	81	67	12円56銭

※ 当社は今期より連結決算となっており、(参考)に記載の前期実績は、単体決算の計数であります。

4. 修正の理由

売上高につきましては、プロフェッショナルセグメントは好調を維持する見通しですが、インテリア事業部門では上半期に好調であった自動壁紙糊付機の反動減等を見込んでおります。その他の部門の売上につきましては、概ね前回予想を維持する見通しであり、当期売上高は前回予想を 135 百万円上回る 9,370 百万円となる見込みであります。

営業利益につきましては、売上高の増加等により、前回予想を 130 百万円上回る 300 百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、営業利益の増加等により、前回予想を 160 百万円上回る 285 百万円となる見込みであります。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、経常利益の増加等により、前回予想を 110 百万円上回る 190 百万円となる見込みであります。

なお、当期につきましては、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）に係る社会全体の動向が、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

（注）業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。